



仙台市の復興への取組み

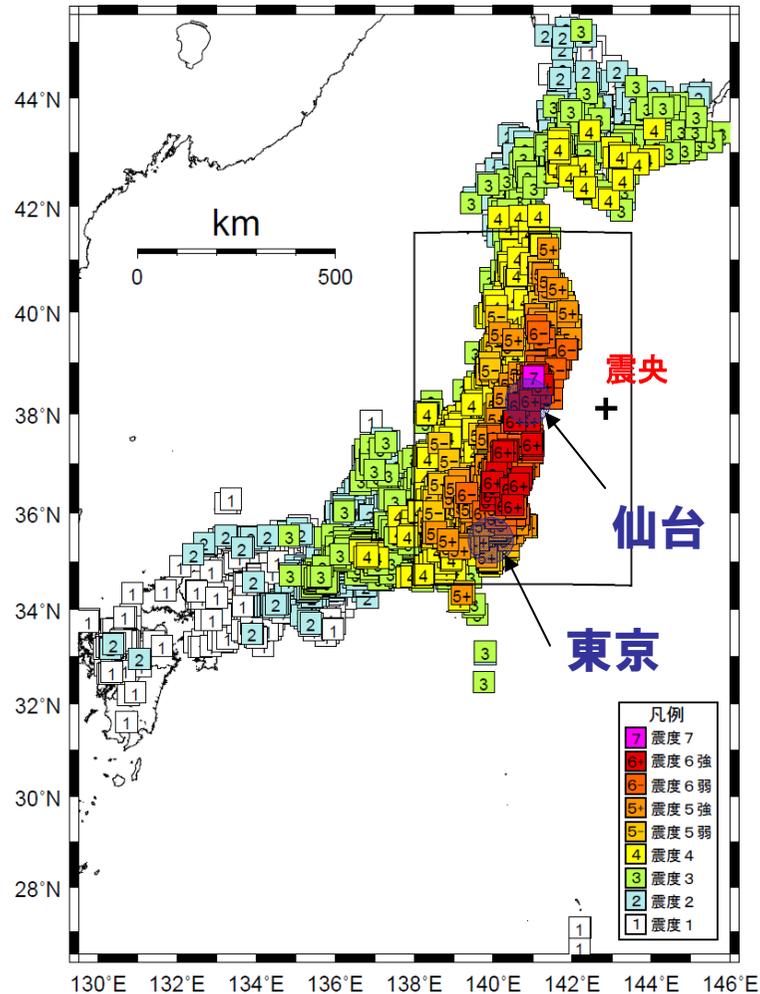


仙台市復興事業局

参事兼震災復興室長 梅内 淳



東日本大震災の概要①



(気象庁HPより)

出典:「災害時地震・津波速報 平成23年(2011年)
東北地方太平洋沖地震」(気象庁)

日本の観測史上最大規模の地震
世界的にも1900年以降4番目の規模の地震

発生日時

平成23年3月11日(金) 14時46分頃

震央地名

三陸沖(北緯38.1度、東経142.5度)

規模

マグニチュード9.0

最大震度

震度7(宮城県北部)

【仙台市内】

最大震度

震度6強 宮城野区

津波警報

3月11日14時49分

太平洋沿岸に大津波警報発令

津波の高さ・到達時間

仙台港 7.2m(推定値)

(地震発生後、約1時間後に津波(第一波)到達)



東日本大震災の概要②

(消防庁災害対策本部 平成23年度(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第147報))

東北各地の被害状況



	最大震度	人的被害(H25.3.11)	建物被害(H25.3.11)
全国	7	死者: 18,493名 行方不明者: 2,683名 負傷者: 6,217名	全壊: 128,801棟 半壊: 269,675棟 一部破損: 756,794棟
岩手県	6弱(大船渡市など)	死者: 5,034名 行方不明者: 1,151名 負傷者: 211名	全壊: 18,370棟 半壊: 6,558棟 一部破損: 14,139棟
宮城県	7(栗原市)	死者: 10,427名 行方不明者: 1,302名 負傷者: 4,144名	全壊: 85,259棟 半壊: 152,875棟 一部破損: 224,050棟
福島県	6強(国見町など)	死者: 2,922名 行方不明者: 226名 負傷者: 182名	全壊: 21,141棟 半壊: 72,714棟 一部破損: 166,015棟
青森県	5強(八戸市など)	死者: 3名 行方不明者: 1名 負傷者: 111名	全壊: 308棟 半壊: 701棟 一部破損: 1,005棟
秋田県	5強(秋田市など)	負傷者: 11名	一部破損: 5棟
山形県	5強(米沢市など)	死者: 3名 負傷者: 45名	半壊: 14名 一部破損: 1,183棟



宮城県気仙沼市

写真出展: 総務省消防庁



福島県白河市

岩手県宮古市





仙台市の被害状況



◆人的被害(平成25年5月31日現在)

	仙台市内	
		うち仙台市民
死者	907名	812名
行方不明者	30名	
負傷者	2,272名	

※仙台市民でお亡くなりになられた方 986名
(仙台市外で死亡が確認された仙台市民 174名)

◆建物被害(平成25年5月19日現在)

	仙台市内
全壊	30,034棟
大規模半壊	27,015棟
半壊	82,593棟
一部損壊	116,046棟



◆市内被害額の概要(平成24年1月29日現在)

被害推計額 約1兆3,684億円



津波による被害



津波に吞まれる集落(若林区三本塚付近)



津波による被害



(震災前の若林区荒浜地区)



荒浜小学校
津波襲来時は約250人が屋上に避難した



家の土台のみとなった集落

(震災後の若林区荒浜地区)



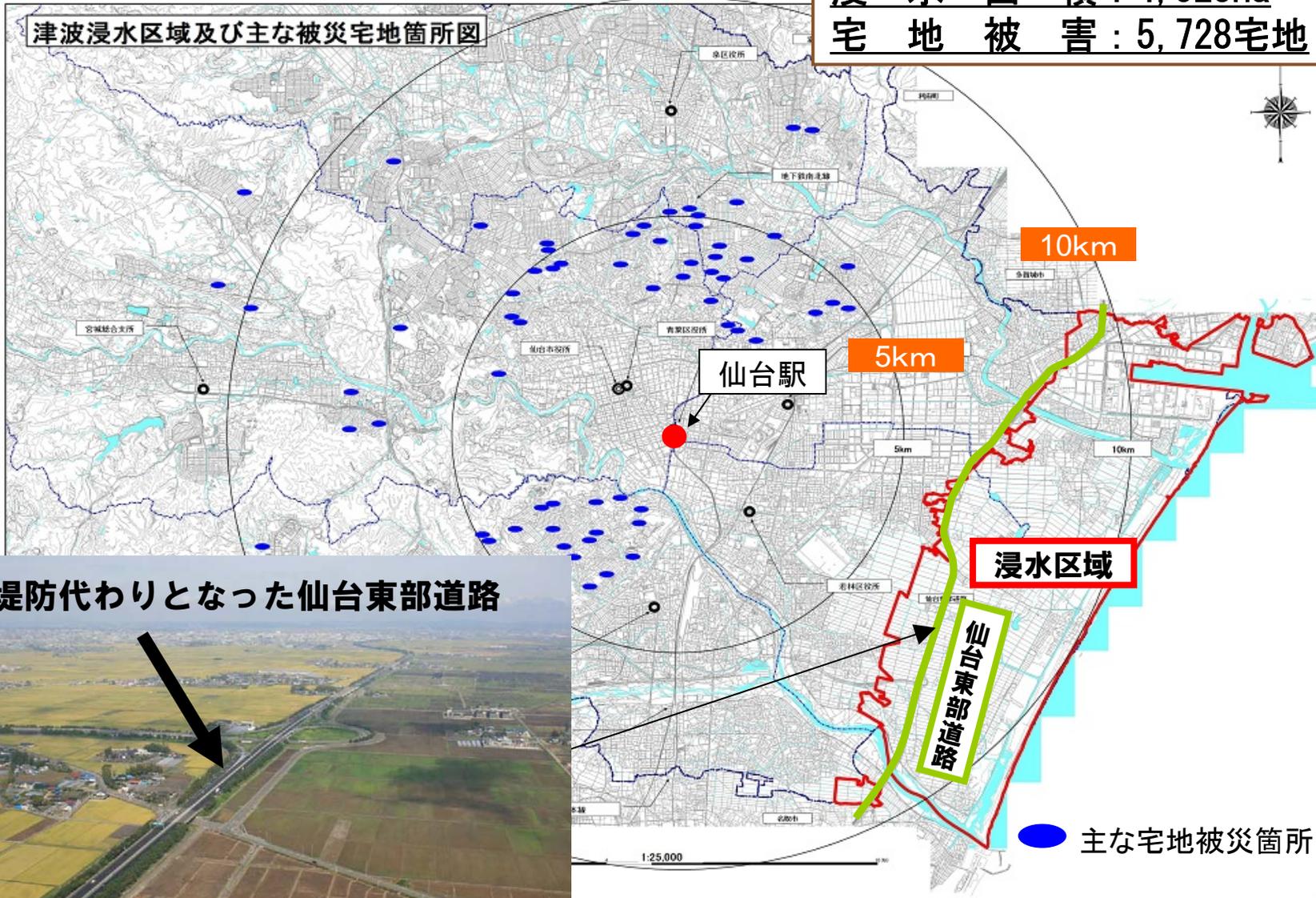
丘陵地の宅地被害





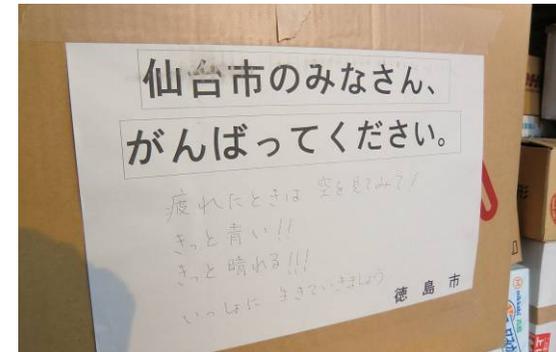
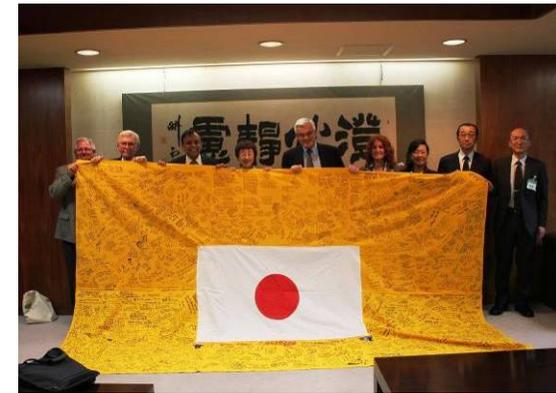
津波浸水区域及び主な被災宅地箇所図

浸水面積：4,523ha
宅地被害：5,728宅地





国内外からの支援



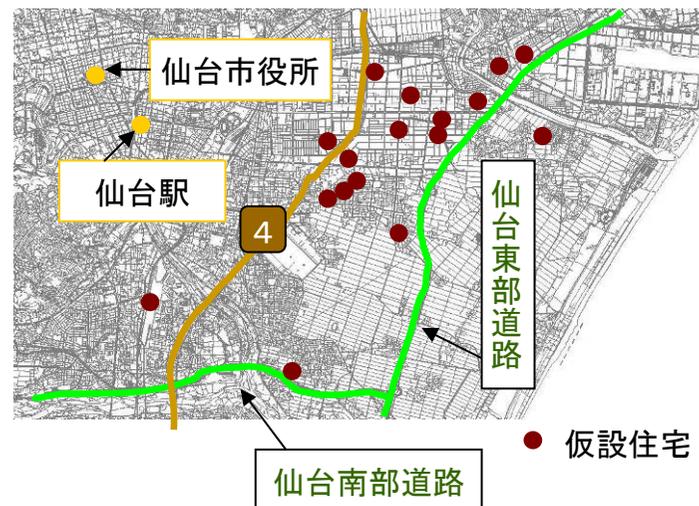


仮設住宅の整備

【入居世帯数】

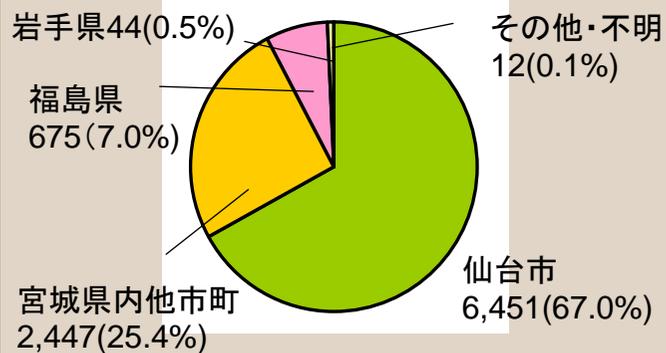
	平成24年 3月30日	平成25年 9月1日	割合
プレハブ仮設住宅	1,346世帯	1,102世帯	11.4%
借上げ 民間賃貸住宅	9,838世帯	7,806世帯	81.1%
借上げ公営住宅等	825世帯	721世帯	7.5%
合計	12,009世帯	9,629世帯	100%

【プレハブ仮設住宅の所在地】



震災時の居住地

全体 (N=9,629世帯)



3分の1が仙台市外から
(福島県からは1割弱)

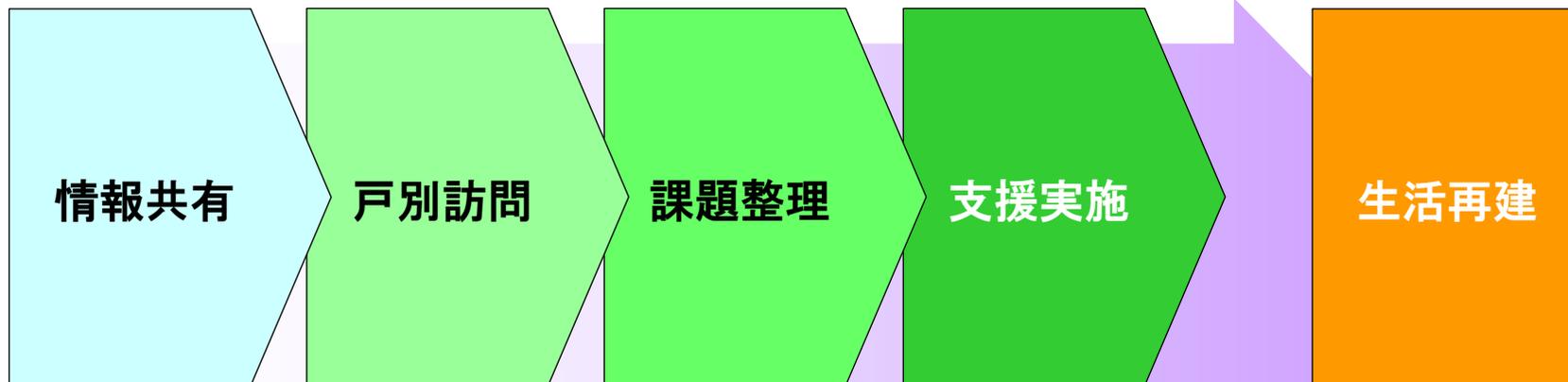


(あすと長町仮設住宅)



生活再建に向けた取組み

- ◆住まいの再建など、応急仮設住宅にお住まいの方々が仮設住宅退去後の生活の見通しを早期に持つことができるよう、関係団体と連携した多面的な支援を実施



復興事業局を中心に、区役所や社会福祉協議会、NPO等の各支援主体と支援状況を共有

生活再建支援員が各家庭を訪問し、住まいの再建や健康面などの生活上の問題点を把握

訪問結果を踏まえ、各支援主体と自立に向けた課題を整理し、今後の対応方針を検討

対応方針に基づき、必要に応じて各支援主体や関係機関などと連携した多面的な支援を実施

訪問件数
7,980件

※複数回の電話連絡や訪問で、接触できなかった世帯647件を含む

H25. 8. 31現在



がれきの撤去

仙台市内のがれき発生推計量
約**135**万トン (市処理量の約4年分)



平成23年12月 撤去完了
平成25年 9月 焼却処理完了
平成26年 3月 処理完了予定

(がれき搬入場の原状回復を含む)

平成25年8月31日時点 処理率 95%

がれき発生量の50%以上のリサイクルを目標

平成25年8月31日時点 リサイクル率 74%

仙台方式(自己完結型)

発生場所

可燃物
不燃物 資源物
に粗分別



がれき搬入場

東部沿岸地域に3ヶ所の搬入場(計100ha)
と仮設の専用処理施設を設置
コンクリートや家電、木類など10種類以上に細かく
分別



(仮設焼却炉)



(被災自動車の山)



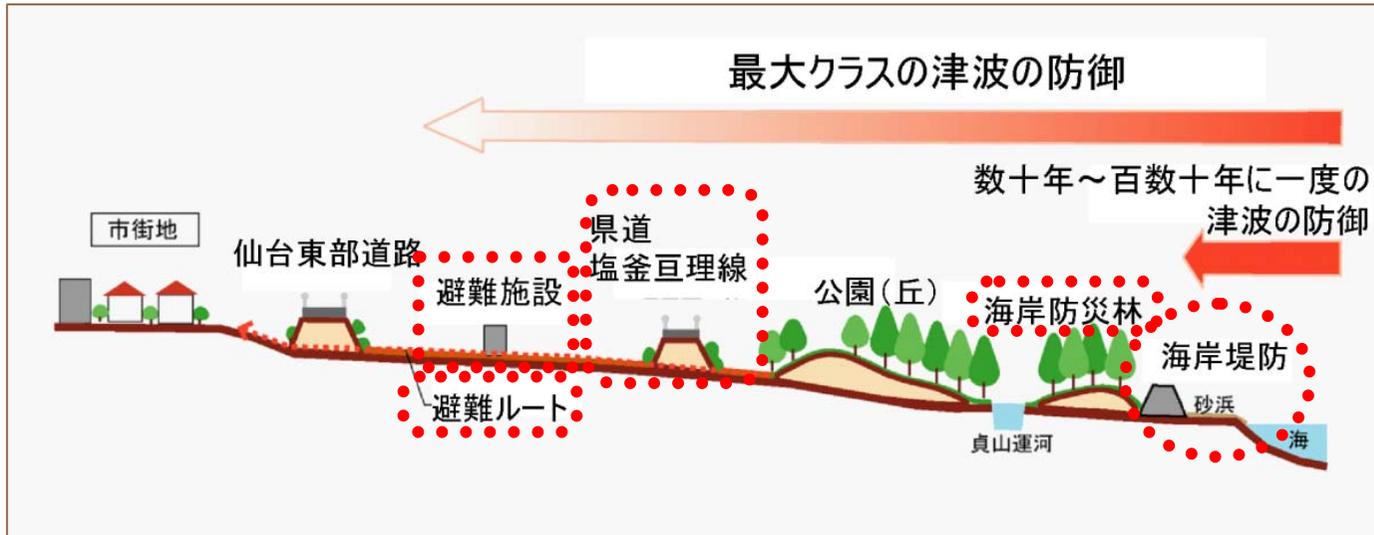
(家電品の山)



(金属類の山)



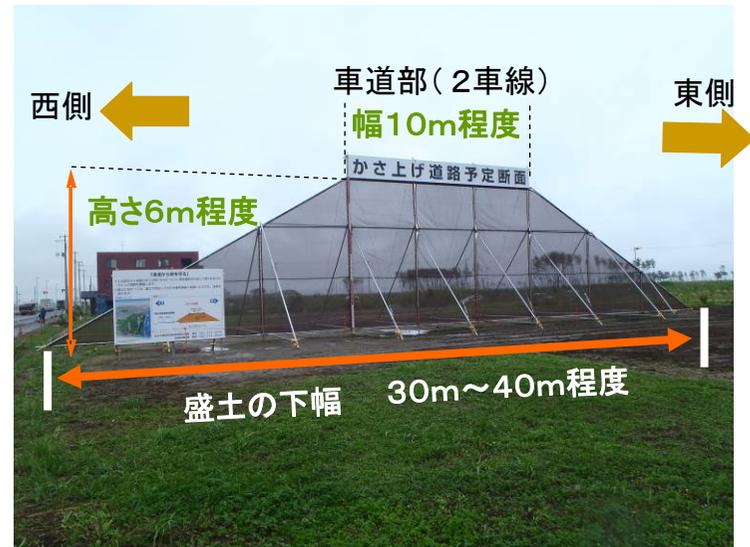
津波対策施設(イメージ)



(断面図)



かさ上げ道路実物大モデル





津波シミュレーション

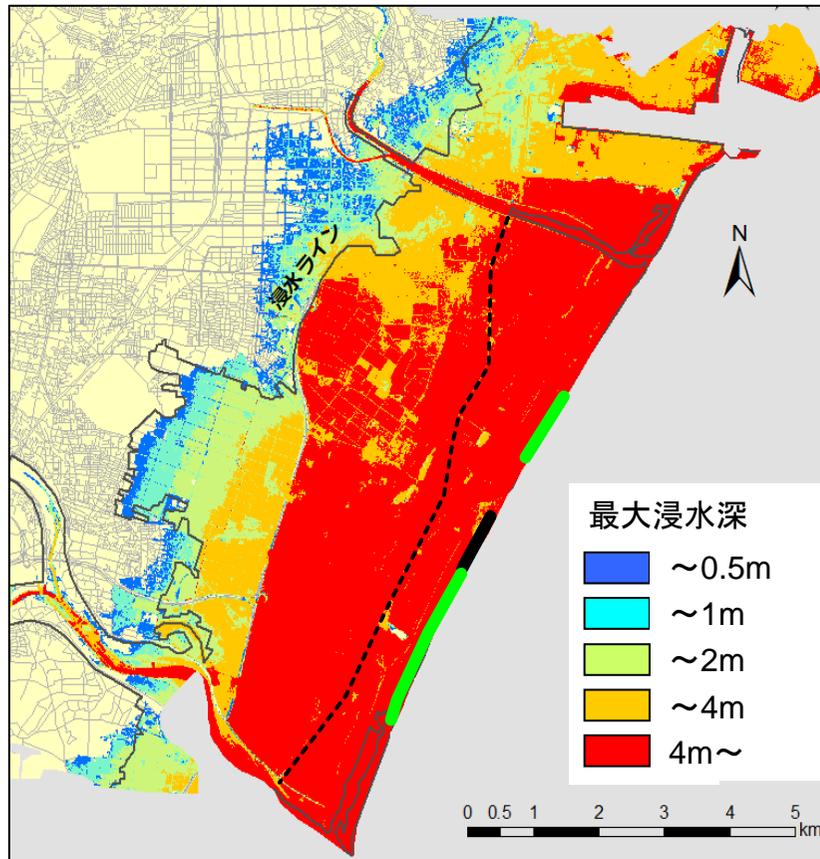
①今後の予測のベースとなるもの

大潮時の満潮位での再現

3月11日の津波を大潮時の満潮位 (T.P. +0.76m) で再現 (3月11日の潮位より約1.2m高い)

潮位: T.P. +0.76m
海岸堤防 T.P. +5.5m
海岸堤防 T.P. +6.2m

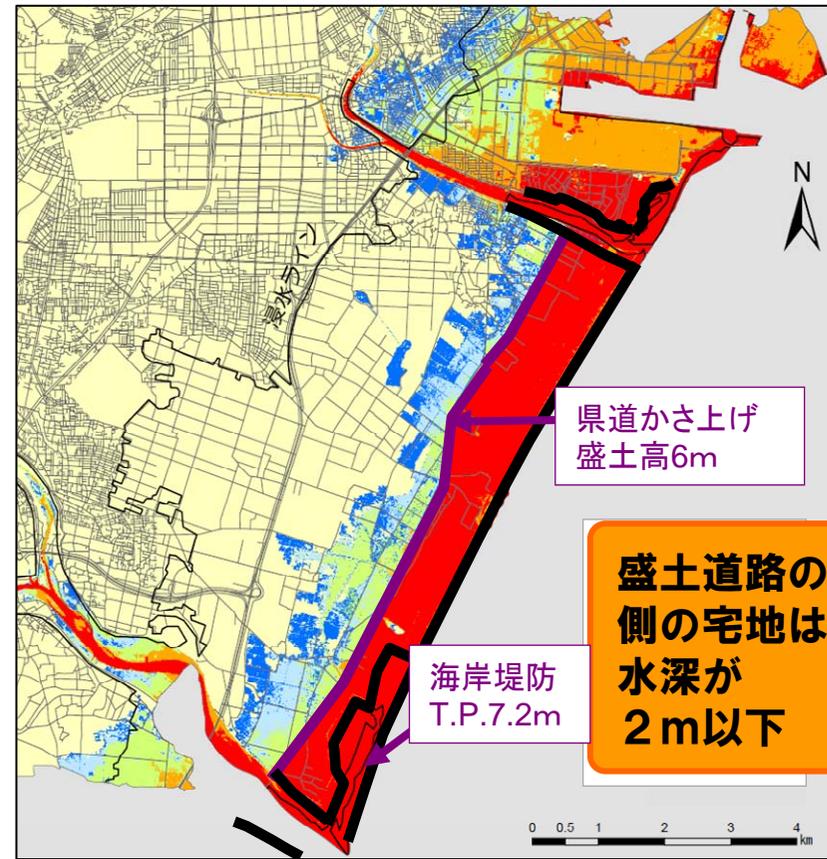
堤防の高さと位置は、震災時のもの



②復興計画の前提としたもの

1. 海岸・河川堤防は国・県から示された計画による。
2. 盛土道路の位置は、県道を元の位置でかさ上げするが、災害危険区域を縮小するため、岡田・南蒲生地区において変更。

潮位: T.P. +0.76m
海岸・河川堤防 T.P. +7.2m
県道 かさ上げ6m

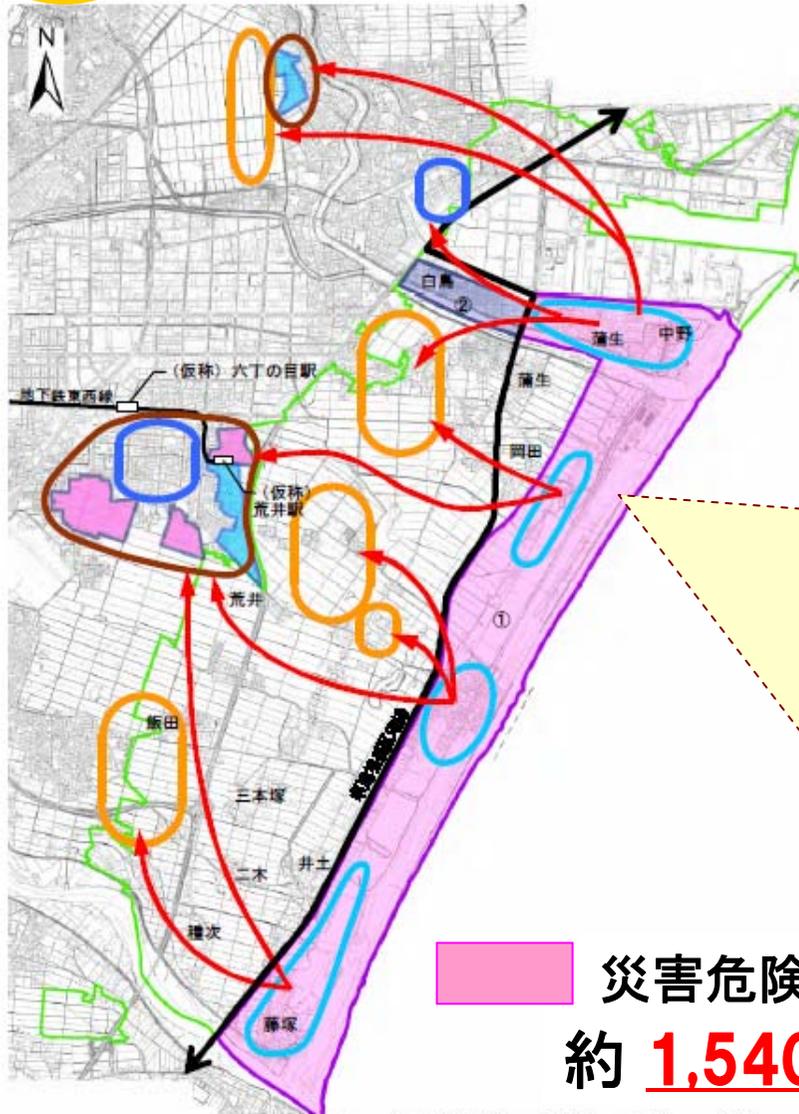


- ・地形(標高)データ: 平成23年3月11日の震災直後の地形(地盤沈下を考慮)
- ・対象とする津波規模: 過去最大クラスである、平成23年3月11日の津波を東北大学がモデル化し、再現。



住宅の再建(その1)－防災集団移転－

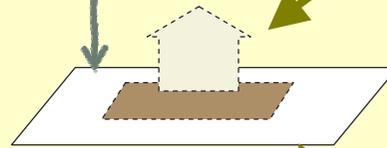
(防災集団移転のイメージ)



移転対象地区(災害危険区域)の支援制度

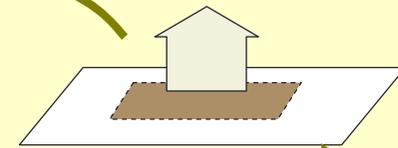
移転費用(引越し)
補助

移転者は移転先宅地を
購入または借地



移転先住宅団地

住宅再建・土地取得へ
の補助(利子補給)



移転促進区域

被災宅地の買取(任意)
(住宅等移転料含む)

平成26年度内に移転先13地区の
整備を完了



住宅の再建(その2)

— 宅地被害復旧・支援事業 —

地震による被害の程度が、「危険」または「要注意」と確認された宅地は、

仙台市内に **5,728** 宅地

(平成25年7月末現在)

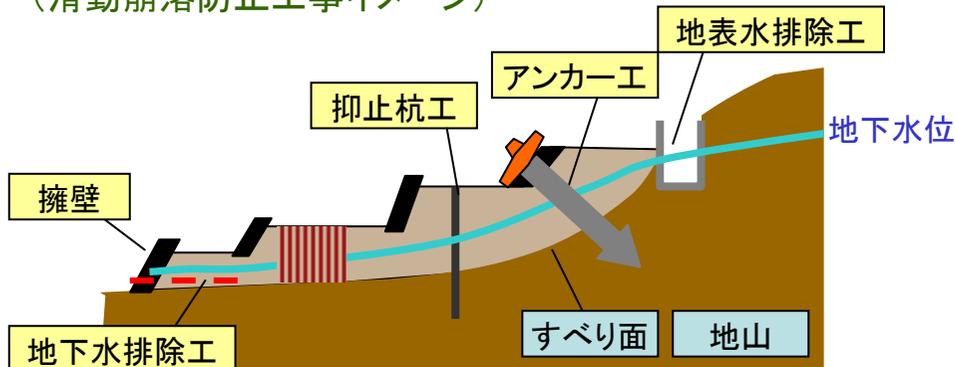
公共事業区域内に存する
宅地復旧を支援 (約**44%**)

左記以外の被災宅地 (約**56%**)

工事費は国の復興交付金等を活用し、実施
私有財産の保全のため、宅地所有者が一部負担

擁壁等の負担工事のうち、一定の要件を満たす
場合には、100万円を超える部分の90%を助成

(滑動崩落防止工事イメージ)



青葉区西花苑地区



住宅の再建(その3) — 復興公営住宅の整備 —

供給目標戸数 3,000 戸



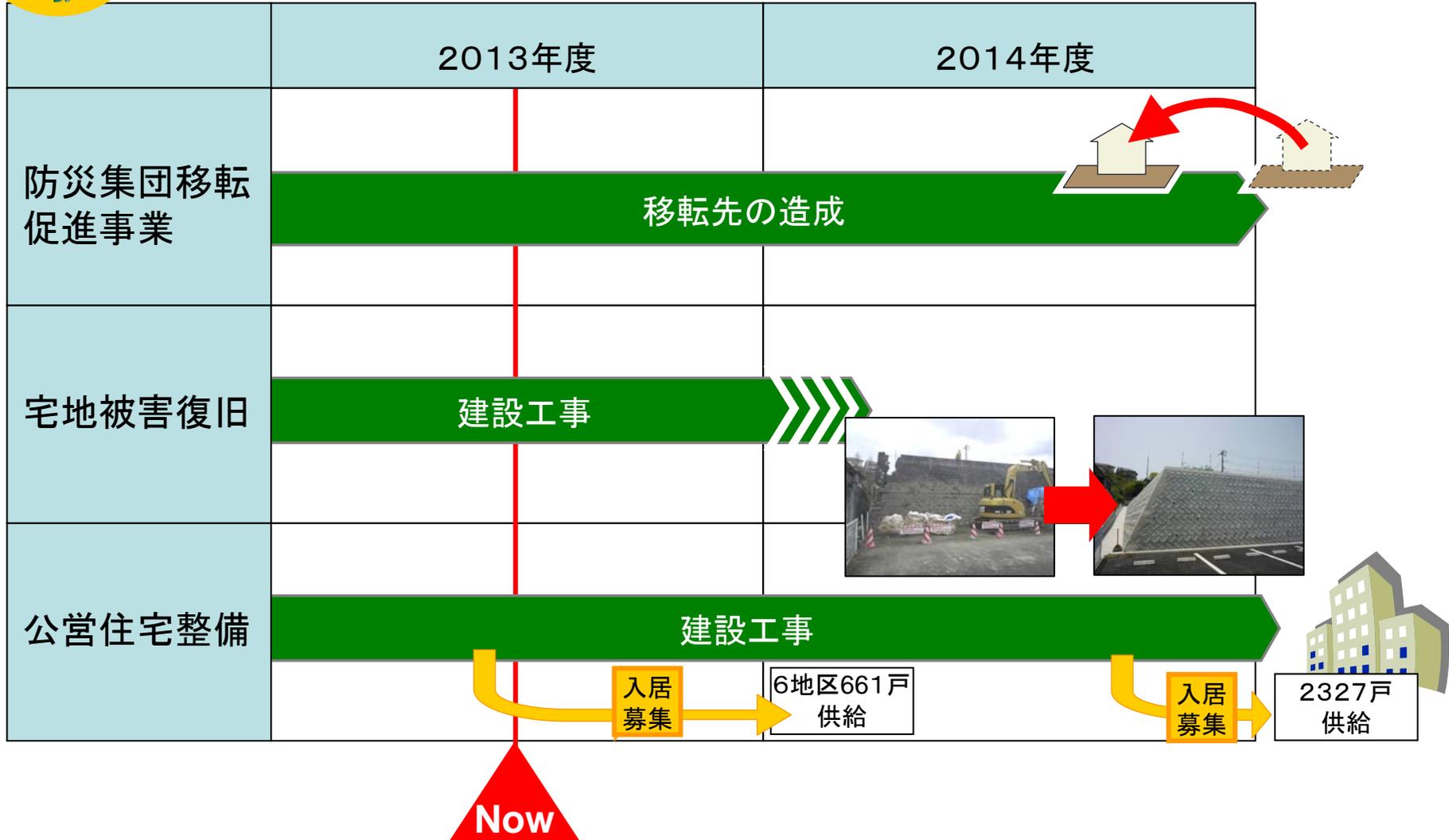
田子西復興公営住宅イメージパース



荒井東復興公営住宅イメージパース



住宅再建スケジュール





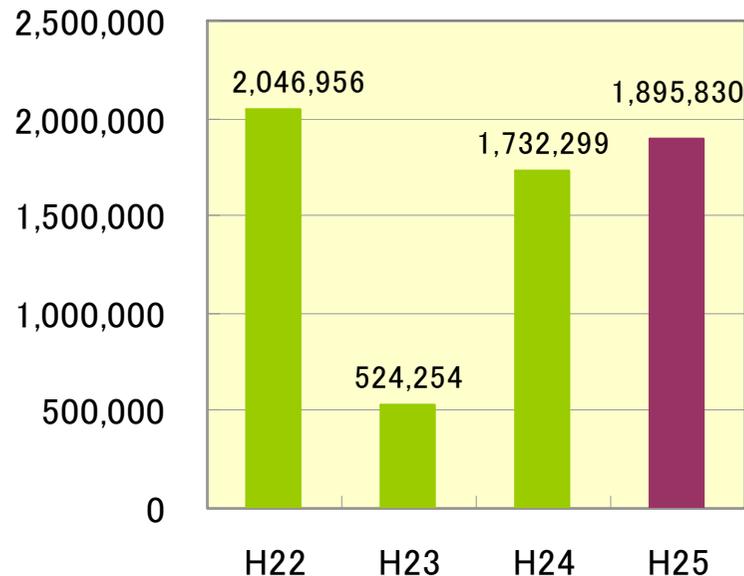
仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)

特別イベント 伊達な杜舞台2013年4月13日～14日

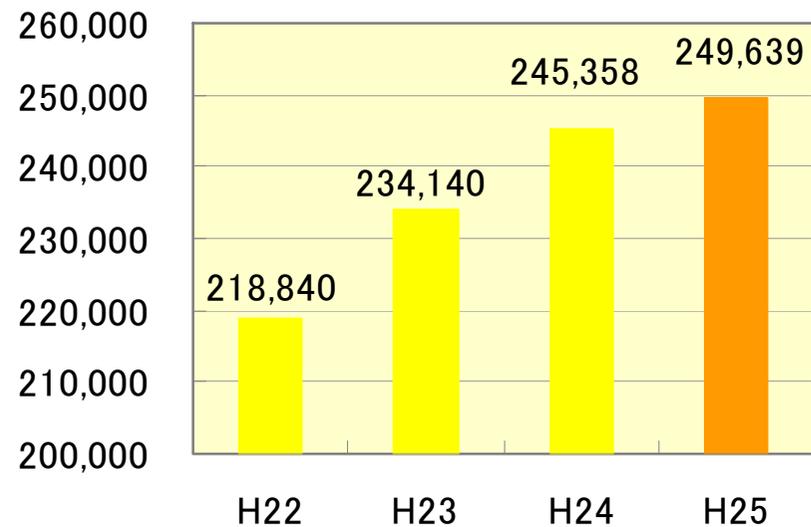
2013年4月1日～6月30日



観光客入込数(4月～6月)



宿泊客数比較(4月～6月)



※仙台市内の主要な観光施設等のサンプル調査です。※概況のため、後日数字が変更する可能性があります。



国連防災世界会議の開催

開催時期:2015年3月(5日間程度) 開催場所:仙台市
 参加者:国連全加盟国(193カ国)、国際機関、NGOなど
 参加者数:本体会議 約5,000人、関連事業 のべ4万人以上を想定
 > 2015年以降の今後の世界の防災戦略の策定
 > 東日本大震災の経験と教訓を国内外に発信



(仮称)国際センター駅
周辺地区コンベンション
施設

国連防災世界会議の構成

本体会議

内容:国連主催による
大規模国際会議
参加者:国連加盟国、
国際機関、
認定NGO等
会場:仙台国際センター、
(仮称)国際セン
ター駅周辺地区
コンベンション施設

関連事業 東日本大震災の経験・教訓や東北の復興を発信 市民の皆様にも広くご参加いただけます。

総合フォーラム

内容:仙台市が省庁等と連携して開催する防災や復興に関する総合シンポジウム
会場:東北大学川内萩ホール

一般事業

○シンポジウム・セミナー

内容:テーマごとに関係する様々な方々が行うシンポジウムやセミナー
会場:市民会館・県民会館などの仙台市中心部の施設、青森・岩手・宮城・福島
県内でもイベントの実施を検討中

○展示会

内容:防災や復興をテーマに各国、国際機関、自治体、NGO・NPO、企業等による様々な取組みを展示
会場:せんだいメディアテーク、夢メッセみやぎ

歓迎行事

内容:スタディーツアー、
本体会議参加者
と市民との交流
プログラム等

※実施内容は、現在調整中であり、変更になる場合があります。

・会議開催による経済波及効果大

本体会議だけでも約19億円の見込み

・仙台・東北のPRによる交流人口の拡大

・防災関係プロジェクトの誘致や防災関連産業の振興など

➡ **東北の復興を後押し!!**



ご清聴ありがとうございました。